

の事は、御はからひの衆と申には、御返し過分に、出候、大方の職人には、一重の代として、三百疋二百疋など、人によりて出候、御醫師賀茂衆などには、から物引合などをへて似合たる物出候、一御たのむ總奉行伊勢守古より此分右筆御はからひ方は、代々同前備後守方に仕候右筆はさだまらず候、近年は下總守仕候つる、

一御返の御使兩人にて候、是は門跡大名衆へまかり候、代々勢州名字仕候、某右筆參候時は、子にて候貞茂仕候、進候は貞遠と兩人仕候、御使在所、日野殿、三條殿、此次に西殿へ參候門跡へは、聖護院殿、青蓮院殿、實相院殿、吉良殿、石橋殿、澁川殿、武衛、細川殿、畠山殿、山名殿、一色殿、讚岐殿、修理大夫殿此四人御相伴赤松、京極、大内此三人座敷同前細川殿、御母上さまへは同朋衆まいる、攝家へは取次の方へわたし候、其外の衆は、殿中へ祇候候て御給候、奈良衆、賀茂衆、取次の方へ渡候、色々故實共候、

一大名御供衆などは、御返し御禮に御參候、

一朔日殿中にてめしあり、御たのむ方より下行ひる勢州より點心名へまいらせられ候、御酒あり佳例也、

一二日、於殿中御憑御返各申合候て參候、此間はからひ右筆の人、各酒をまいらせられ候、

一御はからひとは、御返の物を取調候てをき候を、公方様ぞと御覽せられ候、是を御はからひと申、此衆規模なり、御はからひの同朋衆には千疋づゝ也、

一三日、御憑今日ことく御返すみてのこりたる物を、右筆兩人、御使人、同朋、御ちりとて、鬮にて給候、先勢州へ可然物を二色、三色、まいらせられ候、いにしへは用脚など過分に御座候て、方方へ御ほうが、又人の御とぶらひなどにもたまはりたる由申候、

〔宗五大草紙下〕一いにしへは、御たのむは、三日參て候、七月晦日と八月朔日に參て候、又八月三日